

博士は、アメリカ合衆国ニューヨーク大学で美術史を専攻し、東洋考古学および美術史の権威者のひとりであつた故A・サルモニー博士に師事して、中国および日本の考古学および美術史に特に関心を持つようになった。

一九五六年以来、東京都三鷹市にある国際基督教大学の教授となり、美術史と考古学を担当しているが、それまでは、アメリカ合衆国セントルイス市のワシントン大学で美術考古学を教授していた。その間、一九五三—四年には、フルブライト奨学金を得て、日本に留学し、京都大学文学部考古学研究室で日本考古学の研究に専念、また西日本の諸地域に旅行して研究資料を作製した。国際基督教大学に迎えられてからも、北海道や東日本各地に考古学研究の旅をかさねたり、同大学構内の縄文時代住居址の発掘調査を行うなど、さかんな学問的活動を続けている。数年前の出版、"The Jomon Pottery of Japan"は、わが縄文土器の総合的研究をまとめた好著として、欧米の学界に知られているが、先史時代日本文化に関する彼の研究は、その日本留学前から着手され、十分年季のかかつたものである。したがつて、キッター博士が、本

書中の「日本」を執筆されたのは、決して偶然ではないとおもう。

以上の如き経歴から考えられるように、博士は日本人学者の研究をひろく読んで理解し、彼らの業績を正しく評価するという条件をみたすことの出来る環境にある。本書の中に、極めて新しい資料がすくなくならずられているのは、多くの日本人学者が著者の仕事を助けたからにはかならない。日本文、欧文の参照すべき論文や著書のリストも添えてあつて、われわれ日本人にも、大いに役立つ。特にその所論は日本人学者とは違つた角度があるので、一読の価値ありと思う。

(有光 教一)

学界消息

史学研究会関係

七月例会

七月二日(土) 於・京大薬友会館

中国近世の観音信仰 佐伯 富

新発見の高句麗古墳 有光 教一

十月例会

十月一日(土) 於・京大薬友会館

二つの学会に出席して 宮崎 市定

——国際歴史学会と東方学者会議——

8ミリシネ映写

国史関係

読史会七月例会

七月九日(土) 於陳列館演習室

帝国主義と民主主義 鈴木 良氏

ナショナルリズムと外交 彭 沢 周氏

読史会九月例会

九月十日(土) 於陳列館演習室

沖繩の旅から 横田 健一氏

欧洲の旅から 柴田 実氏

読史会十月例会

十月八日(土) 於陳列館演習室

妙正物語について
近世初期の大坂
藤井 学氏
脇田 修氏

東洋史関係

旧制大学院例会

九月一〇日(土)午後二時 陳列館会議室
一八九四年農民戦争と東学の関係
金 洪慶

新制大学院例会

七月五日(火)午後五時三〇分 楽友会館
宋代客戸をめぐる諸問題
梅原 郁
七月二〇日(水)午後二時

史学科第二教室

銀座成立についての一管見 谷口規矩雄
なお終了後、アフガニスタン発掘調査に参加する小谷仲男氏の壮行会をかねて懇親会を河原町ミュンヘンにて開催、同君の壮途を祝した。

九月六日(火)午後六時 楽友会館
明代官田小史
森 正夫

九月二〇日(火)午後六時 楽友会館

私度僧苑生の一側面
藤善 真澄

西洋史関係

今年は西洋史研究室から数名の方が海外に留学されることとなつているが、さしあたり

第一陣として出発される今津晃助教授、永井康視大学院学生の歓送会が七月九日東山荘でおこなわれた。今津助教授はアメリカ合衆国・ウィスコンシン大学へ、永井大学院学生はドイツ連邦共和国・ヴュルツブルク大学へとそれぞれ七月下旬に出港された。なおこれより先、ドイツ連邦共和国・ベルリン自由大学へ留学されていた野田宜雄大学院学生が七月中旬、無事帰国された。

地理学関係

人文地理学会 第37回例会

六月二五日(土)午後一時
龍谷大学史学会と共催
人口ポテンシャルについての一考察
山澄 元

龍大所蔵「混一疆理歴代国都之図」について

海野 一隆
小池 洋一
なお別室に大谷探検隊関係資料および将来品「混一疆理歴代国都之図」などの展覧があり、龍大小笠原宣秀教授の解説があつた。

人文地理学会 第38回例会

(奈良地理学会と共催)

考古学関係

イラン・アフガニスタン・パキスタンの学術調査(第二年度)
京都大学人文科学研究所は、昨年からの継続事業として、「京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査」をおこなうため、七人からなる調査隊を派遣した。隊長は水野清一教授、隊員は陳頭明、林巴奈夫、田中重雄、西川幸治(工学部助手、建築学)、佐原真(大学院文学研究科学生、考古学)、小谷仲男(同、東洋史学)の各氏。水野隊長は七月に、本隊は八月初めに出発した。隊員からの通信によると、九月中はアフガニスタンで仏教遺跡の調査をおこない、一〇月初めからパキスタンのシャバズガリ遺跡(昨年、一部の発掘によつて発見した仏教寺院址)を発掘して、一二月末に帰国する。

領域と観光圏

商圏と観光圏

海野 一隆

小池 洋一

品「混一疆理歴代国都之図」などの展覧があり、龍大小笠原宣秀教授の解説があつた。

人文地理学会 第38回例会

(奈良地理学会と共催)

九月一七日(土) 於奈良女子大学
自然村と行政村
井戸 庄三
インドネシアの旅
石川 栄吉

考古学関係

地域細胞を指標とした都市化計測法
樽松 静江

イラン・アフガニスタン・パキスタンの学術調査(第二年度)
京都大学人文科学研究所は、昨年からの継続事業として、「京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査」をおこなうため、七人からなる調査隊を派遣した。隊長は水野清一教授、隊員は陳頭明、林巴奈夫、田中重雄、西川幸治(工学部助手、建築学)、佐原真(大学院文学研究科学生、考古学)、小谷仲男(同、東洋史学)の各氏。水野隊長は七月に、本隊は八月初めに出発した。隊員からの通信によると、九月中はアフガニスタンで仏教遺跡の調査をおこない、一〇月初めからパキスタンのシャバズガリ遺跡(昨年、一部の発掘によつて発見した仏教寺院址)を発掘して、一二月末に帰国する。